

市健康を守る会創立50周年記念対談 健康なからだは市民の宝

～生涯健やかでいきいきと過ごせるまち碧南市をめざして～



市健康を守る会が今年で創立50周年を迎えるにあたり、そのあゆみとこれから目指すもの、さらに市民の皆さんの健康管理のあり方、大切さなどについて、会の役員に語っていただきました。なお、内容は要約してあります。（敬称略）

問合せ 保健センター ☎(48)3751

50年間のあゆみ

原田医長 それではまず、健康を守る会の半世紀にわたるあゆみについて、ご感想、ご意見などをしていただきたいと思います。

始めに、山中会長から、特に会の発足当時のお話を含めてお願いします。

山中会長 創立から半世紀が経った

今では当時のことを知っている人はほとんどいなくなっていますので、まず、今年で満98歳の白寿を迎えられた顧問の山中寛三先生よりお聞きしている発足前からの話をします。

昭和38年、国から「医師は診療所で臨床医療に従事するばかりではなく、診療所から出て、公衆衛生活動に努めるべき」との答申があったことを受け、市医師会は、昭和39年、健康連絡協議会を設置し、その当時は交通事故が多発して血液が不足していたことから、保健所のご協力のもと市民に献血を奨励し「献血の会」をつくりました。

大まかな規約のもと、昭和42年夏、夜は医師会員ががんと献血の話と座談会、翌日の午後は町内会、婦人会および保健所の応援で、血圧測定と血液型の無料判定ならびに健康相談を実施しました。



市健康を守る会会長 山中寛紀

この実績からその年の11月21日、正式に「碧南市健康を守る会」が設立され、初代会長は青柳市長、副会長は現顧問の山中寛三先生で発足したものであります。

次に、50年を振り返ると、実に様々な変遷のもとに現在に至った訳ですが、この会の特徴と最近の生活を取り巻く社会情勢がめまぐるしく変化しているなかでの活動について顧みたいと思います。

この会の組織・活動は、いわゆる市民ぐるみの健康づくりであり、三師会と保健所および行政、さらには市内各地区から毎年選出される約200人の健康推進

市健康を守る会50周年に寄せて

市長 禰宜田政信

本年ここに50周年を迎えることができましたことは、ひとえに関係各位の皆様のご尽力の賜物であり、感謝申し上げます。

健康を守る会は、行政、医療関係者、各種団体などを始めとした市民の方々を含めた全市的な組織として活動を続けてきた先進的な組織であると思います。

健康を守る会の基本理念でもある「健康なからだは市民の宝」のとおり、7万市民が健康で楽しく暮し、「生涯健やかでいきいきと過ごせるまち碧南市」を築くために市民総ぐるみの健康増進に向けた協働活動に大いに期待するものであります。

市としましては、「健康寿命日本一」を実現するために、今後も健康を守る会が60周年、100周年と末永くご発展していただけるように精一杯のご支援をお約束させていただきます。

市健康を守る会50周年を祝す

市健康を守る会顧問 山中寛三

昭和42年11月21日、正式に碧南市健康を守る会が設立され、初代会長は青柳市長、副会長は私で、その後、平成9年より副会長である私が会長職を務めました。発足13年目の昭和55年には、地域保健事業の関係で最も権威ある第一生命の保健文化賞を受け、その翌日、表彰された十数名は昭和天皇陛下と皇后陛下より拝謁を賜る栄誉を得ました。また、副賞として250万円をいただき、健康を守る会20周年記念として、昭和62年に我が国彫刻家の第一人者である柳原義達氏の「道標・鳩」（6ページ掲載）を現保健センター前に設置しました（現在は藤井達吉現代美術館に展示）。今後、健康を守る会は、この素晴らしい柳原義達氏の彫刻に負けない、立派な業績を上げるよう努力をしていただきたいと思います。

最後に健康を守る会を提起した1人である私が100歳近い年齢となり、ここに50周年記念を迎えることができ、誠にうれしい限りであります。

員が一緒になり、本会の各事業に取り組んできたことです。今では市民協働による事業が当たり前のようになつていく分野で行われていますが、その当時としては先進的なものでした。また、社会情勢のめまぐるしい変化のなかでの主な活動としては、まず、電子メディアの目をみはる発展に伴うIT化の波が、保健や医療、福祉の世界にも押し寄せていることです。



△献血バス

次に、医療制度面において、世界的に類を見ない超高齢者社会への対応として、平成12年からの介護保険制度では、少なからず問題が出てきています。最後に、平成20年からのメタボリック症候群に着目した、いわゆる疾病の一次予防に主眼をおい

た特定健診・特定保健指導が開始されたことです。

このように、様々な変化に対して、正直苦慮せざるを得ないことも否めません。これまで諸先輩の先生方が築いてこられた会の理念をしっかりと見据えたうえで、行政との連携を密にするのみならず、なお一層の市民の皆さんとの一体化を図ることによりのり切つてまいりました。



原田医長

発足当時の関係者のご尽力に対しまして、心から敬意を表するとともに、この会の特徴が、行政、関係者、市民が一体となつて活動をしていること、社会情勢などの変化に対応してきたことについて、会長として大変なご苦労があったこととあります。続きまして、三師会、それぞれの立場からお願いします。

加藤会長

50年といいますが、私の年齢とほぼ同じです。長いあいだ、市民の皆さんが主体となつてこの会が続けられてきたことは、本当に素晴らしいと思います。

平成29年度の日本人の平均寿命は、男性が80・75歳、女性が86・99歳で、10年前より男性が約2歳、女性は約1歳延びています。それに伴い、社会的には、認知症の人が非常に増えてきました。



市医師会会長
加藤丈博

当時、達成率は7%程度でしたが、平成28年歯科疾患実態調査により50%を超えたことが発表されました。この状況を「8020健康長寿社会」と位置付けました。



歯科医師会会長
水野博史

奥村会長 病気をしたときに治療することはもちろん重要ですが、それを想像しあらかじめ健診を受けることや健康情報を勉強することは意識しなければ取り組めないことです。50年もの前から保健活動をしてきた先人たちの先見の明に驚嘆するとともに敬意を表します。そして今、その活動に薬剤師として参加できることをうれしく思います。

現在、薬剤師の仕事は、医薬品を供給する仕事から人と話を

また、医療の進歩も目覚ましく、腹腔鏡を用いた手術もかなり行われるようになりました。

このような、医療の発達した高度高齢化社会になり、そのなかで人生の終末をどのように迎えるのが望ましいか、再考されるようになってきました。今までは、病院で最期を迎えられる人が多かったのですが、在宅で看取するという選択も大切になってきました。10年前とはかなり時代が変わっています。

健康を守る会が長く続いているのは、時代の変化に対応してきたからだと思っています。

水野会長 本年ここに50周年を迎えましたことを、誠に喜ばしく思います。

今でこそ、国は地域包括ケアシステムの構築に全力をあげているわけですが、市においては50年も前から、市民の健康を守るためには、行政主導ではなく市民、三師会、行政が連携・協力し合い、市民総ぐるみで保健活動を推進してきました。このことを一市民として大変誇らしく思います。

我々、歯科医師会は口腔の健康は全身の健康につながるという考えのもと、平成元年より、「80歳になつても20本以上自分の歯を保とう」という8020運動を開始しました。

する仕事へ力点が変わりつつあります。薬剤師は日々最新の医療情報を勉強し、その人にあった情報提供を心掛けています。市民の皆さんには何でもお尋ねいただきたいですね。

原田医長

これまでの活動は、医療関係者のもとより、市民の皆さんのご理解とご協力の賜物であると思っています。

特に、昭和51年の西端・天王地区での地区保健衛生組織の育成に始まり、昭和57年から市内全域での独自の活動をしていただいている健康推進員の存在が大いと思っていますが、山中会長いかがでしょうか。

山中会長

そのとおりです。平成26年から28年までの3年間のアンケートによると、活動面において約70%の方が困ったこともあったが、その反面、約77%の方が結果として良かったと答えています。

毎年3月に1年間の活動報告を聞いていますと、各地区での活動を継続することにより、そのコミュニティの引継ぎ、つながりの役割も担っているように感じます。

11月18日(土)に文化会館で予定



△乳幼児歯科健康診査



△赤ちゃんお誕生おめでとう訪問

している保健学博士の蝦名玲子先生との講演会のテーマの1つである「社会的な健康づくり・健康社会学」に通じるところがあると思います。



△特定保健指導



△柳原義達《道標・鳩》

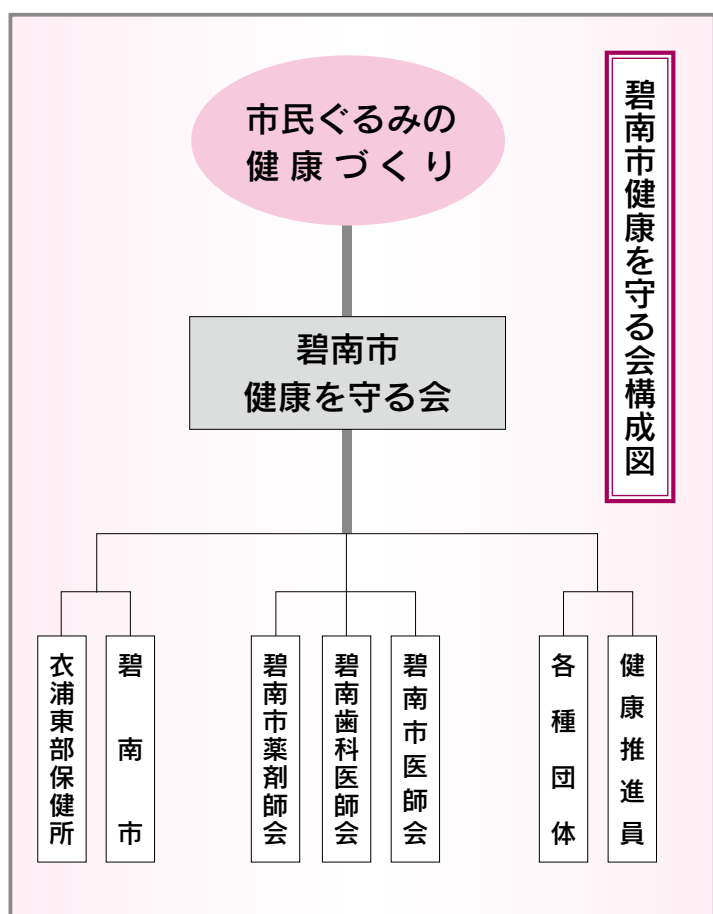
この健康推進員の活動が、健康増進はもとより、地域の安心、安全にも寄与することになれば、こんな嬉しいことはないと思います。



△市民健康教育講座



△乳幼児健康診査



今後の市民の健康について

原田医長

次に、山中会長が健康を守る会の50周年を記念して執筆していただきました記念論文「碧南市民の健康カルテ」についてご意見をお伺いしたいと思えます。まず、山中会長から、この記念論文につきましてご説明をお願いします。



市保健センター医長
原田公

山中会長

この会が50周年を迎えるに当たり、市民の皆さんにこれまでの成果をフィードバックし、今後、我々が何を中心に進めるべきかをまとめた論文であります。

まず、乳幼児期から小児期における健康状態については、他市に比べて劣ってはいませんが、小中学校において、先進的な生活習慣病若年化対策事業を実施しているなかで、その事後指導

の受診率がまだまだ低いことや、家庭における受動喫煙の問題をどう解決するかがポイントであります。

青年期については、1番壮健な時期で、健康上大きなトラブルが少ないことから、どのように健康状態を把握するかが問題で、生活習慣病発症の若年化や一部若年発症の悪性疾患・がんへの対応として、小中学校時代における将来を見据えた健康教育と一次予防が重要です。



△生活習慣病若年化対策事業

壮年期から高齢期においては、直近のデータから女性では血糖が高く、男性ではメタボリック症候群の割合が多いことから、青年期と同様に、一次予防としての生活習慣の見直し、自分の健康状態を十分把握したうえで、プランに即して継続的に指導することが必要で、そのためには、

水野会長

今後の歯科保健活動としては、まず、乳幼児期、学童期においては、口腔機能の育成とすると正しい知識の啓発、青年期においては、歯科健診の見直し、拡充と意識の向上、高齢者には、誤えん性肺炎予防のための口腔機能訓練の必要性を感じました。

奥村会長

これまでの活動を振り返り、そして、世代ごとに取り組むべき課題が見えてきたことは、有意義であると思います。薬剤師会として、あぶりだされた課題にどう取り組むのか、どんな役割を担えるのか。健康を守る会の皆さんとともに検討し、日々取り組んでまいりたいと決意を新たにいたしました。



市薬剤師会会長
奥村晋平

健康を守る会として 目指すもの

原田医長

最後に、山中会長からこれらの市民の健康のあり方、会の活動について決意を含めてまとめていただきたいと思えます。

山中会長

この度節目の50周年を迎えることは、誠に誇らしいことでありますが、当会の重責を担う者としては、これまで以上会の発展・飛躍を目指し、より一層努力の必要性を痛感する次第です。特にこの10年は、過去10年とは比べものにならないほど、医療・介護・福祉をとりまく現状に変化がみられると思います。それらを各自で総括をしていただき、今後の地域保健医療についての糧にしていただければ幸いです。

また、高齢化に伴い、今後、大切なことは健康寿命をいかに延伸させるかで、まさに健康を守る会の理念に匹敵しますが、それを成し遂げるかは大変難しいことです。記念論文「碧南市民の健康カルテ」にまとめたように、市の特性を十分に検証し、市全体の社会的な課題として捉え、健康を守る会が中心となつて市民総ぐるみの健康推進活動が求められると思います。

より簡便で正確な健康情報を我々医療従事者が持続的に提供して行くことも大事であり、その手段としてICTやAIが利用される時代も遠くないと推測します。また、がん死亡の全体の割合は平均的な数値であるが、特に女性における肺がん死の増加と、男女ともすい臓がんが増えつつあり、これが高い喫煙率と直接関連するか否かは、疫学的検証が今後必要になるものです。

一方、近年問題になっている青少年の性感染症。特にB型肝炎や子宮頸がんの発生母地であるヒトパピローマウイルス感染症を防ぐことは重要な課題で、医療従事者のみならず教育現場などとも協議し、健康を守る会の将来に向けての大きな課題と受け止めています。

最後に何よりも問題なのは、男性の喫煙率をいかに減らすか、受動喫煙から非喫煙者をどう守るかの2点であります。

2025年問題といわれる超高齢化社会に向かい、同時に大切な少子化問題、さらにはこの減少することもたちをいかに健やかに育てるのかについて大きな問題のひとつとしても、この受動喫煙から子どもたちを守ることは大きな課題と考えます。

原田医長

それでは、専門分野からまた三師会の会長としてご意見や今後の活動などについてご意見をお願いします。

加藤会長

健康を守る会の設立以前より、日常診療だけではなく、市の保健事業に携わってきた結果を、膨大なデータをもとに分析されたことは大変意義深く、これからの活動の礎にもなるものであり、お礼申し上げます。

今後の主な課題としては、糖炭水化物、脂質の摂取過多にならずたんぱく質をしっかりとる食事、適度な運動、たばこによる健康被害の抑制を重点的に活動・啓発していくべきであると考えます。

医師会としては、引き続き、市民の宝である健康なからだづくりのために市民の皆さんとともに会員の総力をあげて取り組んでまいります。



△すこやか碧南編集会議

原田医長

半世紀にわたり市民の健康増進に貢献してきた健康を守る会として、今後も真に市民の健康寿命の延伸に向けて市民の皆さんと一体となつて活動していくことを確信しました。今日は本当にありがとうございました。

市健康を守る会 創立50周年記念講演 健康なからだは市民の宝

生涯健やかでいきいきと過ごせるまち碧南市をめざして

問合せ 保健センター ☎(48)3751



△山中寛紀



△蝦名玲子

入場無料です。是非お越しください。

とき 11月18日(土) 15時～17時

ところ 文化会館

講師 ①山中寛紀氏(市健康を守る会会長)②蝦名玲子氏(保健学博士)

内容 ①講演「碧南市民の健康カルテ～50年間の成果と皆さまへのフィードバック」②講演「“努力” “根性” はもう古い！最新の行動科学研究が解明する健康な生活習慣を継続する方法」③両氏による「フリーディスカッション-市民の皆さまとともに、ヘルスプロモーションのひとときを！」